

# SPANCRETE CORPORATION

## Investors' Guide IR 2012

会社情報



東京スカイツリー® (天望回廊床)

## 株式会社 スパンクリートコーポレーション

本 社

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-3

Tel: 03-5689-6311 Fax: 03-5689-6321

[www.spancretecorp.com](http://www.spancretecorp.com)

**JASDAQ** 〈 JASDAQスタンダード・コード 5277 〉

# ● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

## インベスターズガイドについて

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

## ■ 2012年3月期について

我が国の経済は、東日本大震災以降落ち込んだ企業の生産活動は緩やかに回復に向かう中、秋口以降、円高による輸出の減少や欧州の債務問題などに伴い足踏み状態となりましたが、円高が一服、米国経済も回復が見られること等を受け、年度末に向け持ち直してきました。

しかしながら、欧州の債務問題や原油価格の高騰、さらには原発稼働停止に伴う電力供給不安や電力価格の上昇、円高の慢性化懸念等が企業収益に影響を落とし、雇用情勢・所得環境については改善に至っておらず、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、2012年3月期当社の業績は売上高31億3千6百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益2億4千8百万円（前年同期比682.2%増）、経常利益2億8千6百万円（前年同期比522.5%増）となりました。当期純損益につきましては、有価証券の減損処理による評価損1千4百万円、繰延税金資産を計上したことによる法人税等調整額1億6百万円等により、当期純利益3億7千6百万円（前年同期4億5千5百万円の当期純損失）となりました。

事業部門別の業績は、次のとおりであります。

### ① スパンクリート事業

長期的な景気低迷により、マンション床板をはじめとする需要減の影響を受けましたが、引き続き鉄道関連等の需要が好調だったこともあり、売上数量が前年同期比4.5%減少しましたが、売上高は28億8千1百万円（前年同期比0.5%減）とほぼ同水準となりました。また、前事業年度後半に実施した構造改革の効果が顕著に現れ始め、営業利益1億1千9百万円（前年同期1億4百万円の営業損失）と黒字を確保することができました。

### ② 不動産事業

賃貸ビル4棟のうち2棟で多少の空室が発生したものの安定収益を計上しており、売上高2億5千5百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益1億3千3百万円（前年同期比6.0%減）となっております。

なお、平成24年3月に茅場町駅前に賃貸用不動産を1棟購入しております。

## ■ 2013年3月期の業績予想

2013年3月期は、当期に引続き構造改革の果実を収穫しつつ、旺盛な受注活動が続いており、売上高34億8千5百万円、営業利益3億円、経常利益3億円を見込んでおります。

一方、当期純利益は2億5千万円となり、前年同期比33.6%減少となる見通しではありますが、これは当期の純利益には1億6百万円の繰延税金資産計上と言う一過性要因があるためであり、実質的には、当期とおおむね同水準の純利益を予想しております。

## ■ 利益分配の見通し

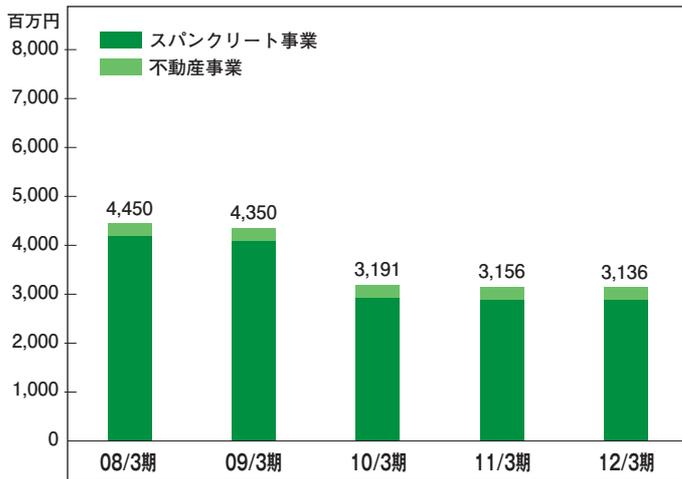
2012年3月期は最終損益の黒字及び配当原資を勘案の上、3期ぶりに復配、また当初予想の3円を2円増配し1株につき5円の配当とさせていただきます。

次期の2013年3月期配当につきましては、上述の次期見通しの業績を達成した上で、当期末と同水準の5円に会社設立50周年記念配当5円をプラスし、10円の配当を予定しております。

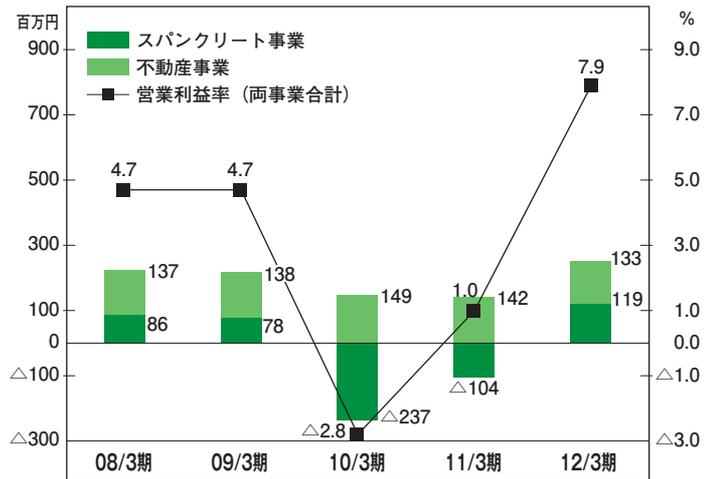
## ■ 今後の経営方針

- ① 工場の効率化及び生産・出荷体制の調整等により生産コストを削減し、他社製品・他工法とのコスト競争力を強化します。また顧客満足度経営を重視し、製品の品質安定・改善に努めます。
- ② 付加価値の高い戦略製品と、相対的に利益率の確保しやすい商品及びマンションの床板の拡販に注力します。
- ③ スパンクリートの販路を再構築し、需要の増加している建築並びに土木分野に折り込み活動を行います。
- ④ 生産ラインを活かしたより付加価値の高い新製品の開発に努めます。
- ⑤ 不動産事業の安定的運営を心掛けます。

## 売上高



## 営業利益



## 損益計算書要旨

(単位：百万円)

	10/3期	(%)	11/3期	(%)	12/3期	(%)
売上高	3,191	100.0	3,156	100.0	3,136	100.0
売上原価	2,772	86.9	2,607	82.6	2,390	76.2
販売費及び一般管理費	509	16.0	517	16.4	497	15.9
営業損益	△90	△2.9	31	1.0	248	7.9
営業外損益	53	1.7	14	0.4	38	1.2
経常損益	△37	△1.2	46	1.4	286	9.1
特別損益	△118	△3.7	△464	△14.7	△9	△0.3
税引前当期純損益	△156	△4.9	△418	△13.3	276	8.8
法人税、住民税及び事業税	10	0.3	7	0.2	6	0.2
法人税等調整額	58	1.9	29	0.9	△106	△3.4
当期純損益	△226	△7.1	△455	△14.4	376	12.0

スパンクリート事業 2,881百万円  
不動産事業 255百万円

スパンクリート事業 119百万円  
不動産事業 133百万円  
共通費用 △4百万円

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	10/3期	11/3期	12/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー 営業活動から得たキャッシュ	778	△364	286
投資活動によるキャッシュ・フロー 投資活動から得たキャッシュ	95	204	△621
財務活動によるキャッシュ・フロー 財務活動から得たキャッシュ	△203	△172	△6
現金及び現金同等物の増減額	674	△332	△341
現金及び現金同等物の期首残高	1,873	2,548	2,215
現金及び現金同等物の期末残高	2,548	2,215	1,874

売上債権の増加・仕入債務の減少・災害損失の支払額等による資金の減少より、税引前当期純利益・減価償却費等による資金の増加が上回ったため

投資有価証券の売却による収入・保険積立金解約による収入より、有形固定資産の取得資金等の支出が上回ったため減額

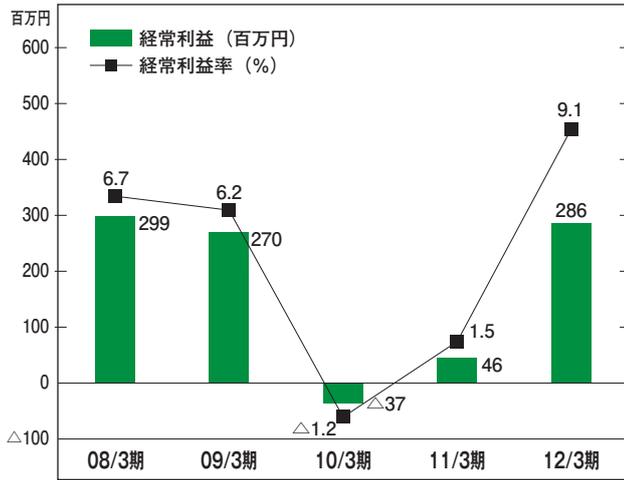
リース債務の返済による支出

## 財務諸表コメント

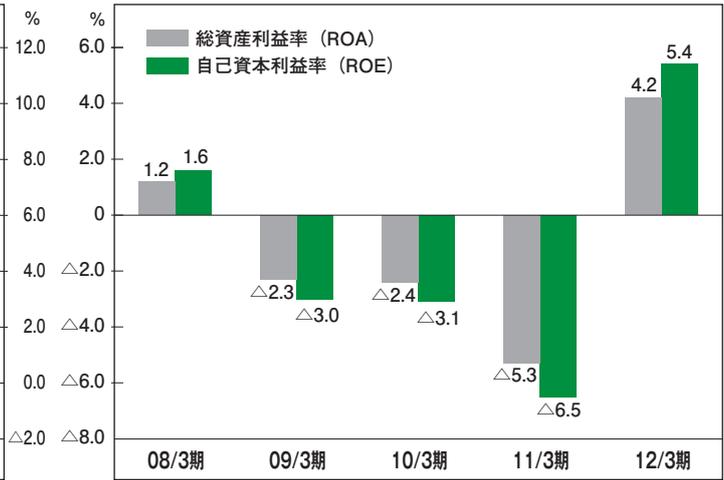
[12/3期]

長期的な景気低迷によりマンションをはじめとする建設需要減の影響を受けたものの、前事業年度後半に実施した構造改革の効果が顕著に現れ始め黒字を確保することができました。

## 経常利益



## 総資産利益率・自己資本利益率



## 貸借対照表要旨〈資産の部〉

(単位: 百万円)

	10/3期	11/3期	12/3期	(%)
<b>資産の部</b>				
<b>流動資産</b>	<b>3,752</b>	<b>3,433</b>	<b>3,196</b>	<b>35.4</b>
現金及び預金	2,262	1,930	1,589	
受取手形及び売掛金等	524	824	909	
有価証券	738	491	390	
たな卸資産	180	165	176	
繰延税金資産	29	—	106	
その他	16	22	25	
<b>固定資産</b>	<b>5,481</b>	<b>5,181</b>	<b>5,838</b>	<b>64.6</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>4,456</b>	<b>4,249</b>	<b>5,118</b>	<b>56.6</b>
無形固定資産	11	8	15	0.2
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,014</b>	<b>923</b>	<b>704</b>	<b>7.8</b>
投資有価証券	760	698	629	
保険積立金	153	152	12	
その他	100	71	62	
<b>資産合計</b>	<b>9,234</b>	<b>8,614</b>	<b>9,035</b>	<b>100.0</b>

## 貸借対照表要旨〈負債・純資産の部〉

(単位: 百万円)

	10/3期	11/3期	12/3期	(%)
<b>負債の部</b>				
<b>流動負債</b>	<b>1,150</b>	<b>986</b>	<b>981</b>	<b>10.9</b>
短期借入金	700	600	600	
その他	450	386	381	
<b>固定負債</b>	<b>871</b>	<b>886</b>	<b>842</b>	<b>9.3</b>
<b>負債合計</b>	<b>2,021</b>	<b>1,872</b>	<b>1,823</b>	<b>20.2</b>
<b>純資産の部</b>				
<b>株主資本</b>				
資本金	3,295	3,295	3,295	36.5
資本剰余金	3,696	3,696	3,696	40.9
利益剰余金	513	△185	191	2.1
自己株式	△300	△370	△370	△4.1
<b>評価・換算差額等</b>				
その他有価証券評価差額金	△71	△15	△9	△0.1
土地再評価差額金	77	322	408	4.5
<b>純資産合計</b>	<b>7,212</b>	<b>6,742</b>	<b>7,211</b>	<b>79.8</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>9,234</b>	<b>8,614</b>	<b>9,035</b>	<b>100.0</b>

Point ① 茅場町駅前に賃貸不動産を1棟取得

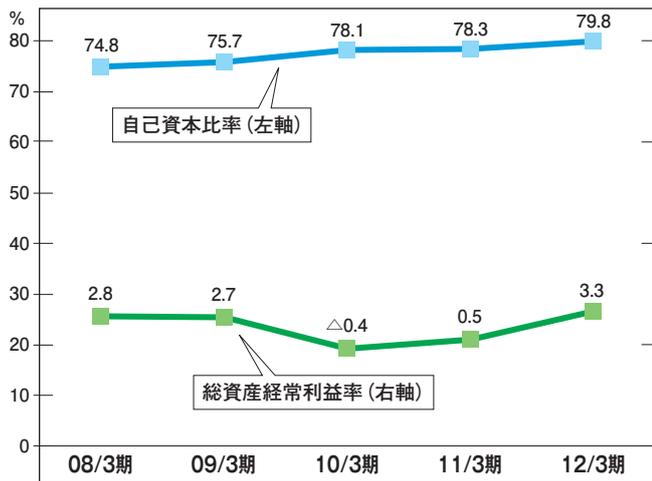
Point ② 投資有価証券 時価の下落、売却等で減少

## 財務諸表コメント

〔10/3期〕 景気減速による建設需要減、原材料価格が高止まりする中、予想を超える工場操業度の落ち込みにより工場の採算が大幅に悪化した事等から赤字計上を余儀なくされました。

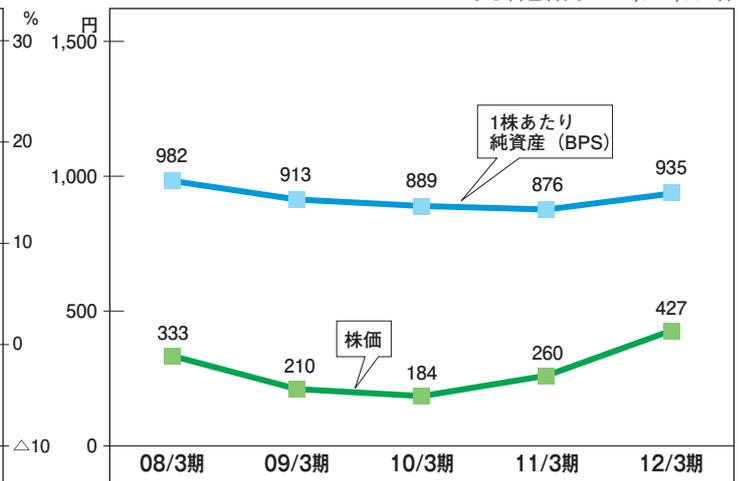
〔11/3期〕 岩瀬工場を閉鎖し、経済環境に合った生産体制を整え、筋肉質な経営基盤を築く事が出来ましたが、建設業界の不振や原材料の高止まりという逆境を完全に跳ね返す事が出来ず赤字決算となりました。

### 自己資本比率と総資産経常利益率

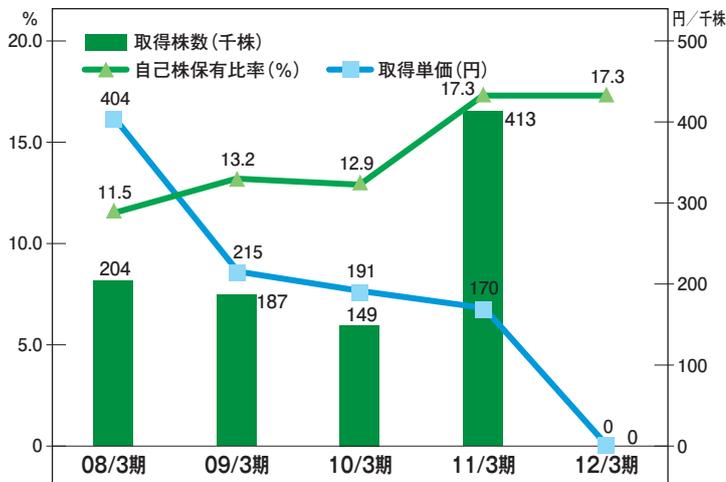


### 株価の推移 (終値)

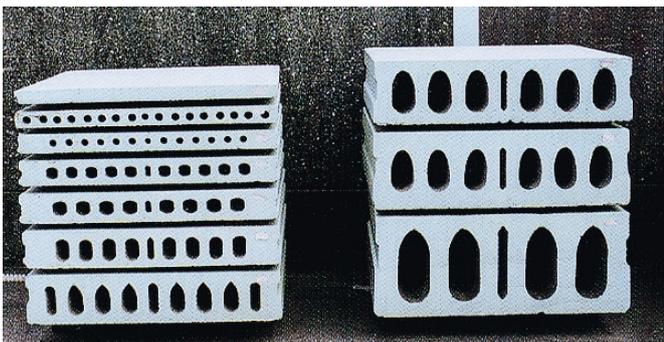
期末株式総数 9,320,400株  
うち自己株式 1,611,861株



### 自己株式買付の推移



## スパンクリート



スパンクリート標準製品。スパンクリートは縦方向に数個の穴をもち、PC鋼線によってプレストレスを与えられたコンクリート板です。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。高耐力、ロングスパンが特長です。当社はスパンクリートの生産・販売を行っております。

### スパンクリートの特長

高強度部材で大スパンに適します



防水性に優れています



防火性に優れています



遮音性に優れています



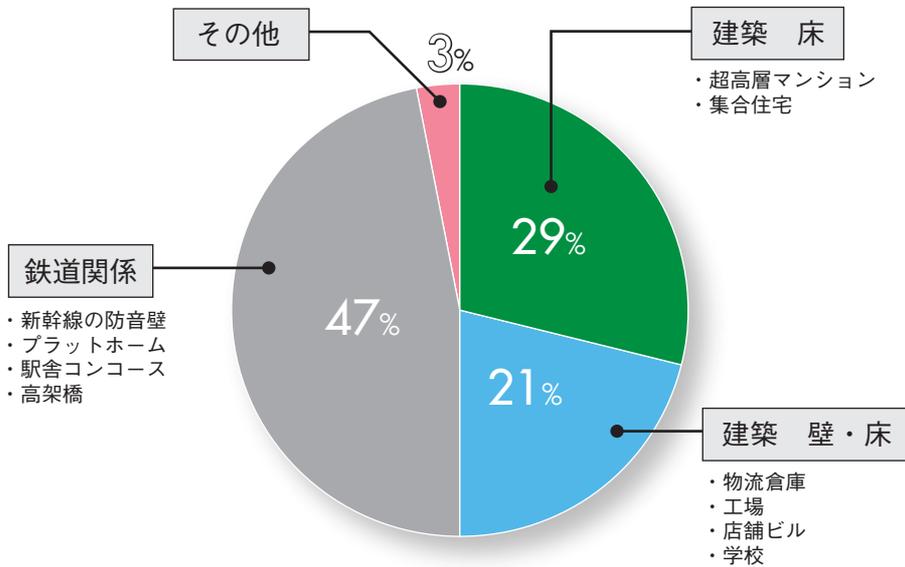
北陸新幹線 防音壁



北海道新幹線 防音壁



### 当期施工の用途比率



マンション 床



倉庫 外壁



教育施設 外壁



## トピックス

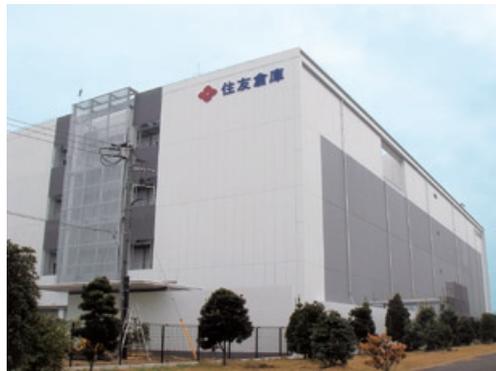
### □東京スカイツリー® らせんスロープ（床）

東京スカイツリー®の天望回廊スロープに採用されました。地上445mより450mへの景色を見ながら、らせん状に登る回廊式スロープです。なだらかな床にするために、3次元のレベル差を克服し違和感の無い出来栄えとなりました。



### □リブパネル（壁）

埼玉県羽生市に建設された倉庫です。従来のフラットなスパンクリートと高さ20mmのリブを施したスパンクリートを併用する事により、デザイン性に優れた建物に仕上がりました。PC躯体特有の短い工期にも貢献しました。



## ひとこと

### スパンクリートとランドマーク



代表取締役社長

齊藤 建次

日本中の話題となっている東京スカイツリー®がオープンいたしました。日本の新しいランドマークの誕生です。トピックスで触れた様に天望回廊の床にはスパンクリートが使われています。これを機に当社50年の実績の中から東京スカイツリー®以外のシンボリックでランドマーク的なものを拾い出してみました。

新幹線、リニアは別として代表的なものとしては「東京ドーム」「レインボーブリッジ」「六本木ヒルズ」「東京ミッドタウン」「東京都庁」等があります。

いずれも床板のため普段目に付くところではありませんが・・・。

さて、第50期は3期連続赤字を回避すべく背水の陣で臨んだわけではありますが、前期までの一連の収益構造改革プラン実施がようやく実を結び、当初の計画を上回る利益を上げることが出来ました。

この間、温かく見守っていただきました株主の皆様には厚く御礼申し上げます。

これをバネに一層の経営基盤の強化を図る所存でございますので今後ともよろしく願い申し上げます。



## 会社の概要

1. 会社名 株式会社スパンクリートコーポレーション  
(英文名) SPANCRETE CORPORATION
2. 設立 1963年(昭和38年)3月23日
3. 資本金 32億9,590万円(2012年3月31日現在)
4. 役員 代表取締役社長 齊藤 建次  
常務取締役 村山 典子  
常務取締役 飯牟礼 聡  
\* 取締役 坪井 正規  
\* 取締役 分藤 潔  
\* 取締役 大野 浩司  
\*\* 常勤監査役 森 康裕  
\*\* 監査役 阿部 裕三  
監査役 加戸 貞之  
(2012年6月22日現在)  
\*は社外取締役です  
\*\*は社外監査役です
5. 本社 東京都文京区湯島2-4-3  
〒113-0034 TEL(03)5689-6311  
仙台営業所 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-6-12  
平和マンション旭ヶ丘208号室  
〒981-0904 TEL(022)272-1901  
宇都宮工場 栃木県宇都宮市平出工業団地8-5  
〒321-0905 TEL(028)661-2211
6. 取引銀行 みずほ銀行(丸の内中央支店)  
三菱東京UFJ銀行(神田駅前支店)  
りそな銀行(上野支店)  
三菱UFJ信託銀行(本店)

## 主要取引先

- 設計事務所 三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジングシステム・東電設計(株)・(株)松田平田設計・(株)梓設計・(株)創元設計・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール東日本建築設計事務所・独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所 他
- 商社 三菱商事(株)・三菱商事建材(株)・三井住商建材(株) 他
- 建設会社 鹿島建設(株)・大成建設(株)・清水建設(株)・(株)竹中工務店・(株)大林組・前田建設工業(株)・戸田建設(株)・西松建設(株)・三井住友建設(株)・鉄建建設(株) 他

## 大株主

- 1 三菱商事(株)
- 2 日本スパンクリート機械(株)
- 3 鈴木金属工業(株)
- 4 村山 典子
- 5 村山 知子

## 会社の沿革

- 1963年 3月 スパンクリート製造株式会社(旧社名)設立  
資本金1,000万円 代表取締役社長 村山好弘就任  
4月 資本金4,000万円に増資  
7月 資本金1億円に増資
- 1964年 2月 宇都宮第1工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始  
7月 資本金2億円に増資
- 1970年 10月 宇都宮第2工場建設完了 生産開始
- 1971年 4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役社長村山好弘就任
- 1975年 10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会(穴あきPC板工業協会)設立  
会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任
- 1976年 5月 JISA6511(空胴プレストレストコンクリートパネル)制定される
- 1979年 12月 資本金2億3,000万円に増資
- 1982年 12月 宇都宮工場 JIS指定工場となる
- 1984年 3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得  
7月 宇都宮第3工場生産設備完了 生産開始
- 1988年 11月 資本金2億9,000万円に増資
- 1989年 5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得  
10月 資本金4億2,434万円に増資  
11月 資本金14億9,759万円に増資  
11月 岩瀬工場建設完了 生産開始
- 1990年 2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞
- 1991年 2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパンクリートコーポレーションに変更  
4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞  
9月 株式を公開(店頭) 資本金32億3,459万円に増資
- 1992年 4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒章受賞(スパンクリート合成床の発明考案など業務精励)  
5月 株式を1対1.4に分割
- 1993年 5月 岩瀬工場 JIS指定工場となる
- 1996年 7月 本社を文京区本郷4丁目に移転
- 2003年 8月 Jスラブ(組立床工法)財団法人日本建築センターの構造評定を取得
- 2004年 3月 明星プレテック株式会社(4月プレテック株式会社に社名変更)の株式を100%取得
- 2005年 5月 宇都宮工場・岩瀬工場・設計部 ISO 9001認証取得  
6月 原田稯代表取締役社長就任  
11月 1単元の株式数を1,000株から100株に変更
- 2006年 3月 プレテック株式会社解散  
10月 普通株式1株を2株に分割
- 2010年 6月 齊藤建次代表取締役社長就任  
7月 本社を文京区湯島に移転  
11月 岩瀬工場閉鎖  
生産設備を宇都宮工場に統合



宇都宮工場